



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2847号 2016.2.5 発行

### スマホ道案内、GPS電波ない地下で 東京駅周辺で実験 国交省など

日本経済新聞 2016年2月4日

国土交通省は4日、全地球測位システム（GPS）の電波が届かない地下や屋内でもスムーズに道案内ができるスマートフォン（スマホ）アプリの実証実験を東京駅周辺で始めた。NTTや東日本旅客鉄道（JR東日本）、三菱地所などが協力する。2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて訪日外国人や高齢者、障害者なども移動しやすい環境をつくる取り組みの一環。これまで難しかった地下・屋内での道案内サービスを快適に使えるようにする（4日午前、東京駅周辺地下）



18年の実用化を目指す。対象エリアは東京駅周辺の地下でつながった大手町、丸の内、有楽町、銀座、八重洲の一部にまたがる。こうした実験では国内最大規模の広さになるという。

従来も屋外ではGPSを使った様々な道案内サービスがある。半面、電波が届かない地下や屋内では利用が難しい。把握した位置情報を表示する地図も、商業施設やビルの管理者ごとに作成・管理される場合が多く、統一したデータが不足している。

実験では周辺ビルなどの協力で地下空間の地図をつなぎ合わせて1つにまとめたほか、ビーコンと呼ぶ無線機器を約300カ所に設置。既存の公衆無線LANのアクセスポイントなどの情報も活用し、道案内アプリを使う人の位置情報を正確に把握できるようにした。

屋外と地下・屋内を行き来しても途切れない工夫も凝らしたという。

基本ソフト（OS）「アンドロイド」を搭載したスマホ向けに開発したアプリを取り込んで起動させる。地下や屋内でも、現在地や行きたい場所までの道順をすぐに表示できる。実験期間は3月6日まで。

今回できた環境を生かす形で、NTTなどは導入を目指す技術の実験もする。行き先をわかりやすく示す立体表現や、曲がり角に来ると振動で目的地方向に引っ張られる感覚を伝える機能などを試した。

国交省は広大な地下空間が広がる東京・新宿での実証実験も検討中だ。

実証実験で目指す新たな位置情報サービス

	屋外	屋内・地下
人やモノの位置の特定	GPSなどの衛星で一定程度は可能	衛星からの電波が届かずに困難
位置を表示する地図	統一基準でまとめられた地図がある	各施設が個別に作成するケースが多い。統一的地図の整備に遅れ
サービスの現状	様々なナビサービスがすでに存在	民間でのサービスは限定的

【今回】東京駅周辺でスマホナビ実験

(注)国土交通省資料をもとに作成

## 医療機器開発で連携 県立医大と大阪府立大協定

読売新聞 2016年02月05日

協定書にサインした県立医大の岡村理事長（左）と大阪府立大の辻理事長（和歌山市で）



県立医大（和歌山市）と大阪府立大（堺市）は4日、先端の医療機器や高齢者のリハビリ装置などの研究、開発で連携する協定を結んだ。両大学は今後、企業や自治体とも協力し、県立医大が持つ医学、大阪府立大の工学や農学などの専門技術を生かした新事業に乗りだし、和歌山、大阪両府県の産業振興に結びつけたい考えだ。

両大学は昨年春から協定の検討を進めてきた。この日、県立医大で、同大の岡村吉隆理事長と大阪府立大の辻洋理事長が協定書にサインした。協定では企業も巻き込んだ研究促進や、科学技術に関するセミナーの開催などで協力することが定められている。

岡村理事長は「大阪の高いレベルの物作りの技術を生かし、災害医療や救急、認知症治療などの質を高めたい」と述べ、辻理事長は「高齢者の運動リハビリや障害者スポーツの研究を進めていく上で、医学的なアドバイスは欠かせない。知恵を結集して新しい機器を生み出せれば」と期待を込めた。

## 大阪で人権啓発研究集会始まる 憲法の大切さ訴え

共同通信 2016年2月4日

「第30回人権啓発研究集会」が大阪市で4日から始まり、講演した作家で明治学院大学教授の高橋源一郎さんが、安倍晋三首相が改正に強い意欲を示している憲法について「守れと言うだけではなく、（大切だと思っていない人にも）理解されるために諦めずに説得する責務がある」と訴えた。集会は5日まで。

「（今の社会は）多数派だから言うことを聞けというような、大きい声を持つ強い人の民主主義になっている」とも指摘。「能力差があるすべての人間が同じ権利を持つことが民主主義の原理」と話した。

講演前には、部落解放同盟大阪府連合会の北口末広執行委員長が「歴史を振り返ると、人権侵害や差別が横行した後に戦争が起きている。人権の確立は平和を維持することだ」とあいさつした。

主催者によると、この日は約3500人が参加。5日は、障害者や水俣病など六つのテーマに関する報告やフィールドワークが行われる。

## こころの病 理解のために【2月13日（土）】

西日本新聞 2016年02月04日

13日（土）午後1時、福岡市中央区赤坂の市中央市民センター。基調講演では、お笑いコンビ「松本ハウス」が、コントとハウス加賀谷さんが統合失調症を発病してからの生活について話す。「げんき」についてのシンポジウムや知的障害者によるバンド「ピュアハート」の演奏などもある。定員500人。事前申し込み不要。入場無料。福岡あけぼの会心の春希望＝092（524）4153。

## 片づけの伝道師「汚屋敷で子育ては虐待といわれて仕方ない」

女性セブン 2016年2月18日号

5000軒の家を手掛けた“片づけの伝道師”こと、美しい暮らしの空間プロデューサー・安東英子さんが『ワイド！スクランブル』（テレビ朝日系）で手掛けた片づけ企画が1月12日以後、数週にわたって放送され、大きな反響を呼んでいる。足の踏み場も

5000軒の家を手掛けた“片づけの伝道師”こと、美しい暮らしの空間プロデューサー・安東英子さんが『ワイド！スクランブル』（テレビ朝日系）で手掛けた片づけ企画が1月12

日以後、数週にわたって放送され、大きな反響を呼んでいる。

足の踏み場もない汚屋敷での、家族 6 人の生活。ゴミと生活用品が混在する中、子供たちが物を食べ、そして眠るのは、「虐待と変わらない」と安東さんは片づけの依頼者である母親を諭した。そして安東さんは続ける。家のあり方は、心の鏡。この状況こそが、自分自身である――と。

安東さんに片づけを依頼した I さん (37 才・女性)。台所には作りかけのまま放置された“元・食べ物”が何か月も放置され、床は足の踏み場もない。その様子は、言葉にしがたい光景だ。5 人の子供を持つ安東さんの心に引っかかったのは、そんな中で 11 才の長女のほか、0 才児まで 4 人の子供が育てられていることだった。そしてこれは、何も I さん宅だけで見た光景ではないと言う。安東さんが“汚屋敷” (おやしき) で育った子供にどんな悪影響があるのか、解説する。

5000 軒の家を見てきて実感しているのは、汚屋敷で子育てをしている家庭が急激に増えているということ。物が散乱した居間には、食卓テーブルを置くことすらできず、それを家族が囲むスペースもない。お盆を床に置いて食べたり、家族がバラバラに食事をする家庭もありました。汚屋敷に住む家族にとって、食事は一家団欒ではなく、ただ空腹を満たすだけの行為のように思えました。

洗われないまま食器が放置された流し台やガス台では、まともな調理などできません。なかには風呂場で米をといでいる人もいました。そんな調子だから、必然的に食事も偏ってしまいます。菓子袋がたくさんあるのも、汚屋敷の特徴のひとつです。親は料理をせず、お菓子で空腹を満たしているのではと疑ったことも幾度あったことか…。

ゴミの上やわずかな隙間に体をうずめて眠る。これでは伸び伸び寝られるはずがなく、成長にも影響しかねない。もちろんそんな布団はダニの温床となります。こうした家で多いのは、親がわが子はアトピーやアレルギーだと思いついでいること。

でもそれはダニに刺されて掻きむしった傷ということが多く、片づけが進むにつれ、「あれ？ 痒くなくなった」「だんだん咳が出なくなった」という会話によくあります。親は子供の不調の原因を、何か病名をつけることで言い逃れをしようとしているのではないかと、とも思います。それだって、ある種の育児放棄。責任転嫁以外の何ものでもありません。

汚屋敷で育った子供は、そもそもゴミや物が散乱した中で生活しているから、「ゴミはゴミ箱へ」「使ったものは元に戻す」といった、生活の基本動作が身につけていない場合が少なくありません。

さらに「食事を作る」「部屋を掃除する」「洗濯物はためこまずまめに洗う」という、自活能力も育たない。

床一面に物があるから、つまづかないようにといつも下を見ながら暮らしているので、猫背になってしまう子供も多いように思います。実際、汚屋敷を訪れると、子供は判で押したように、肩をすくめてうつむきがち。覇気が感じられません。

親にその気がなくても、汚屋敷で子供を育てることは“虐待”といわれても仕方がないと思うのです。

厚生労働省によると、児童虐待は、身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待の 4 種類に分類される。ネグレクトとは親の怠慢による“育児放棄”のことだが、このなかに“ひどく不潔にする”ということが挙げられている。汚屋敷はこれに当てはまるといえるだろう。

## 年をとるとなぜ薄毛になるのか…仕組み解明 ytv ニュース 2016年2月5日

人は年をとると、なぜ頭の毛が薄くなるのか。その仕組みを、東京医科歯科大学の研究チームが解明したと発表した。

発表したのは、東京医科歯科大学の西村栄美教授らの研究チームで、年をとると薄毛になる仕組みを解明するため、毛を生み出す細胞を作る「幹細胞」に着目し、その幹細胞の一生を追跡する研究を行ったという。

研究の結果、この幹細胞は、年齢が若いうちは毛を生み出す細胞を作り続けるが、年をとると、作る能力が低下し幹細胞がふけや垢（あか）となって皮膚からはがれ落ちることがわかったという。このため、徐々に毛根が小さくなり、それにつれて、生えてくる毛も細くなって最終的には生えなくなるという。

毛根が小さくなり薄毛になるのは、これまで男性の特徴と考えられてきたが、今回の研究で、毛根は性別に関係なく、年をとると小さくなることもわかったという。

幹細胞にあるタンパク質の一種「17型コラーゲン」の減りを抑えることで、薄毛の進行を抑えられることもわかっていて、西村教授は「5年から10年の間に治療薬ができれば」と話している

## 七隈にも子ども食堂 食材寄付も募る [福岡県] 西日本新聞 2016年02月05日

九州各地で子ども食堂の取り組みが広がる中、福岡市城南区七隈4丁目に子ども支援食堂「まごころ」が6日、オープンする。商店街の店舗を利用し、18歳未満の子どもたちに夕食を随時、無料で提供する。食堂を運営する保護司の波村真二さん（57）は「放課後に気軽に立ち寄れる居場所を目指したい」と意気込む。

波村さんは妻の双美（よしみ）さん（52）とともにNPO法人を立ち上げ、若者向けの職業訓練を実施している。法人の活動を通じて里親になり、これまで3人の里子を預かってきた。

「草を食べて飢えをしのいだ」「母親からご飯を作ってもらった記憶がない」。幼少期に両親から激しい虐待を受けた里子たちと関わってきた経験から、「満足に食事が取れない子どもたちを何とか支えたい」と思ったのが、開設のきっかけだという。

双美さんが経営する総菜店「オーガニックキッチン まごころ」（同区七隈4の3の32）の店舗を利用し、営業終了後の午後6時から同9時半まで開く。開催のペースは今後検討する。「月の半分くらいは開きたい」としている。

6日は午後2時から食堂について説明会を開いた後、親子丼を無料提供する。食材は寄付や総菜店の残りもので賄う。将来的には店舗2階で学習支援もしていく考えだ。

同食堂では食材などの寄付を募っている。

## 勤務に制限、人材不足も 子の貧困対策で活動のSSW、県内には50人

琉球新報 2016年2月5日

### スクールソーシャルワーカーの役割



学校を拠点に行政機関や地域、医療機関と連携し、子どもの貧困問題や不登校などの解決に取り組むスクールソーシャルワーカー（SSW）は、政府が昨年8月に閣議決定した「子どもの貧困対策に関する大綱」で教育支援の柱の一つに位置付けられる。県内には約50人が配置され、学校長の依頼を受けて問題解決に尽力している。一方、勤務日数や勤務時間に上限が設けられているほか、報酬

の低さによる人材不足の問題点も指摘されている。

心のケアが中心のスクールカウンセラーと違い、SSWは学校を拠点にしながらも、外部の行政機関とも連携を取り問題の解決に当たる。学校では生徒指導委員会に出席したり、担任教員から聞き取りをしたりして子どもの状況を把握し、支援策を考える。場合によっては家庭訪問で親が抱える問題にも寄り添い、学校と関係機関を行き来し行政的な支援につなげている。

県内で活動するSSWの女性は、ひとり親家庭の子どもを担当し、支援につなげた。親



は保育園に預けられない下の子の面倒を見るため仕事ができなかった。夏場に電気が止められ、子どもはあせもで皮膚がただれるほどで、給食が唯一の食事とみられていた。そのため、給食がなくなる夏休み前に急いで支援策を練った。

親には当初、生活保護を勧めたが、就職に必要な車を手放すことに同意せず、頓挫。今度は児童相談所の一時保護所に子どもを預け、仕事を探すことを提案し、受け入れられたという。その間、フードバンクにつなぐなど、当面の食料確保も支援した。

文字が十分に書けず児童扶養手当の更新ができていなかった家庭では、親に付き添って役所に行き、申請手続きを手伝った。

一方、県教育庁が採用するSSWの場合、月の勤務日数は16日、1日の勤務時間は6時間までと定められている。女性は「支援には子どもの信頼を得ることが大事だが、出られる日が限られているので、次に会う約束ができない」と、制限があるために活動に支障が出ている悩みを明かした。

現在の対象が小中学校に限られていることについては「高校は特別支援学級がないなど対策が手薄だ。幼稚園や保育園でも必要性がある」とし拡充も求めた。

SSWの報酬は現在、日給9300円。スクールソーシャルワーカー研究会おきなわなどは、働く環境が十分でないとして、社会福祉士や精神保健福祉士など有資格者の報酬引き上げや、勤務日数の上限引き上げなどを求め、県教育委員会に要望書を出している。（稲福政俊）

## 知的障害者水泳、堂々の銅 美深高等養護あいべつ校2年高橋君

北海道新聞 2016年2月4日

水泳の全国大会で悲願の銅メダルに輝いた高橋君

【愛別】美深高等養護学校あいべつ校2年の高橋和勢（ないき）君（17）＝旭川市＝が、1月に千葉県で行われた「第18回日本知的障害者選手権水泳競技大会」の少年B（13～19歳）・50メートル背泳ぎで、3位に輝いた。昨年10月の全国障害者スポーツ大会（和歌山県）では、25メートル背泳ぎで4位に入ったものの、メダルを逃す悔しい思いをしており、高橋君は「銅メダルを取ることができてうれしい」と喜ぶ。



大会は日本知的障害者水泳連盟が主催。全国から昨年の国際大会の日本代表選手を含む延べ約340人が出場した。

高橋君は背泳ぎで3種目に出場。25メートルが6位、100メートルは8位と、緊張からミスが目立ち、実力を出し切れなかった。道内の大会では認められているスタート直前までの介助がないため、重度の知的障害がある高橋君にとって、「精神的なプレッシャーは大きかった」と父の耕三さんは振り返る。だが、最後の種目の50メートルで自己ベストを更新して、悲願のメダルを獲得。耕三さんは「心機一転で頑張ってくれた」と喜ぶ。

競技には障害の程度の区別はないが、重度の場合は言葉の理解が難しいため泳ぎの習得までの苦労も大きいという。耕三さんは「上位は軽度の人が多い中、3位は立派だと思う」とたたえた。高橋君は「背泳ぎが好き。銅メダルに満足せず、これからも練習を頑張ります」と意欲を見せた。（石橋治佳）

## 高齢、障害者集う施設に 来月末閉校の当別・弁華別小中学校舎

北海道新聞 2016年2月4日

【当別】町内の社会福祉法人「ゆうゆう」（大原裕介理事長）は、歴史的な校舎で知られ3月末に閉校する当別町立弁華別（べんけべつ）小を町から無償で借り、高齢者や障害者が利用できる施設として整備することを決めた。同じく閉校する近くの弁華別中も併せて

活用し、指定避難所としての機能も残す。近く具体的な計画案をまとめ、4月以降に必要な改修工事に入る。地域住民は「地元のシンボリックな建物の活用が決まりうれしい」と喜んでいる。

両校の校舎は道路を挟んで徒歩数分の距離にある。弁華別小は1892年（明治25年）に開校した。現在の校舎は1937年（昭和12年）に建設され、使われている2階建て木造校舎では道内最古。赤い屋根が特徴の趣のある建物で体育館も木造だ。79年建設の弁華別中は、鉄筋コンクリート3階建ての校舎と体育館。



両校は児童、生徒の減少のため3月末で同時に閉校し、4月からは当別小、当別中にそれぞれ統合されることが決まっている。

#### 築79年を迎える赤い屋根が特徴の弁華別小の校舎

町は両校合わせての利活用を目指し、昨年9月に事業者や事業計画を選定する審査委員会を設けた。町内の事業者を公募したところ、障害者や高齢者向けの福祉サービスを展開するゆうゆうが「障害者が芸術文化に触れる

拠点や、高齢者が交流するサロンのような場にしたい」と応じた。

町からの無償貸与期間は3年間で、更新もできる。ゆうゆうは4月に町と正式に契約を結んだ後、校舎の改修工事に入る。施設の具体的な内容は検討中で、ゆうゆうの担当者は「今後、地域の人や専門家と話し合いながら計画を詰めていきたい」と話す。

弁華別小学校・中学校閉校記念事業協賛会の押野見（おしのみ）慎一会長（71）は、校舎の跡利用のめどがたったことに「小学校はぜひ残してほしかったので安心した。昨年8月に小学校で開いたバイオリンコンサートのように大勢の人が楽しめる催しも開いてほしい」と期待している。（山中いずみ）

## 高齢者移住拠点整備へ法改正案 介護サービス手続き簡略化

秋田魁新報 2016年2月5日

政府は5日の閣議で、地方に移住する高齢者の生活拠点となる「生涯活躍のまち」構想を進めるため、制度の枠組みなどを示した地域再生法改正案を決定した。事業者が介護サービスを提供する際に必要な法的手続きなどを簡略化する特例措置を盛り込んだ。改正案は、企業や社会福祉法人などの事業主体と市町村が連携して拠点づくりの計画を作成することを規定。高齢者が継続的な医療・介護サービスを受けられるほか、仕事や地域住民との交流を通じて健康を維持できる生活拠点を目指す。改正案には自治体の人口減少対策を後押しするため、2016年度に創設する「地方創生推進交付金」の規定も明記する。

## 生活保護費でギャンブルどうすれば… 別府市、年2回に調査強化 支給停止も

西日本新聞 2016年02月04日

大分県別府市は、生活保護受給者の遊技場への立ち入りに関する調査を強化する方針を明らかにした。年度に1回の調査を本年度から2回に増やしており、担当者の増員も検討している。実態を詳しく把握し、ギャンブル依存から抜け出せない受給者の生活改善を図る。単身高齢者にはボランティアなど社会活動への参加を勧める取り組みにも力を入れる。

調査は、少なくとも1990年以前から年1回ペースで実施してきた。昨年10月に延べ5日間実施した調査では、市内の遊技場（パチンコ店、競輪場）13カ所で受給者25人を発見し、指導。複数回見つけた9人は、医療費を除く生活保護費を1～2カ月停止。過去3年間では年6～8人を支給停止にした。

調査は「支出の節約を図る」とした生活保護法に基づく。受給開始時には「遊技場に立ち入る行為は浪費を助長することになり、行った場合は生活保護を廃止されても異存ない」

とする誓約書も交わしている。

調査に関して、市民から賛否の意見が市に寄せられており、8割以上は賛成意見。厚生労働省も「受給者のギャンブルは望ましくない」という見解で「生活指導をする上で立ち入り調査もあり得る」としている。

同市の生活保護受給者は3958人（昨年12月1日現在）で市人口の3・3%。保護率は全国平均の2倍近くに上る。高齢単身者が多く、昨年の調査で見つかった25人のうち15人が65歳以上だった。

このため市は、ケースワーカーを通じて介護支援ボランティアや健康づくりなどへの参加を積極的に呼び掛ける。市社会福祉課は「社会的な役割を見いだしてもらい、自立を支援していきたい」としている。

厚生労働省によると、生活保護法では保護費をどう使うかは個々の自由とされ、遊興費の支出を禁止する規定はない。ただ「被保護者は勤労に励んで支出の節約を図り、生活の維持、向上に努めなければならない」（60条）との規定があり、厚生労働省保護課は「常識の範囲での娯楽はあり得るが、それを越えた支出は好ましくなく、調査や指導の対象となる」としている。

福岡、北九州、熊本の九州3政令市に尋ねたところ、大分県別府市のような遊技場への一斉立ち入り調査を実施している市はなく「計画的な使い方をするよう、ケースワーカーが個々で指導している」という。

福岡市では2014年から、ギャンブルやアルコール依存の受給者を把握し、専門機関での治療につなげる取り組みを強化。「依存症は病気だという認識で支援することを重視している」と言う。

一斉調査については疑問の声も多く、熊本市の担当者は「抜き打ち調査のようなことをやってしまうと、受給者とケースワーカーの信頼関係が崩れてしまう恐れがある」。北九州市の担当者は「受給者個々の生活状況まで踏み込まないと、あまり効果がないのではないか」と話す。

生活保護費の使途に関しては、兵庫県小野市は13年4月、受給者にギャンブルでの浪費を禁じ、情報提供を義務づける条例を施行。市民の約6割が条例に賛成する一方で、医師や弁護士からは「依存症の治療を優先すべきだ」などの批判があったという。

## 社説：清原容疑者／頭冷やし更生の道を歩め

神戸新聞 2016年2月5日

どこで、どう間違えたか。高校、プロと「球歴」が飛び抜けていただけに栄光と転落の落差は大きい。元プロ野球選手清原和博容疑者が逮捕された。覚せい剤所持容疑だ。

2日夜、東京・港区の自宅で覚せい剤と注射器を所持しているところを警視庁の捜査員が逮捕した。ストローやパイプなども押収された。覚せい剤は、「自分で使う目的だった」と認めているという。

衝撃の割に意外な感じがしないのは、週刊誌が薬物疑惑を報じていたからだろう。本人は否定していたが、身にどことなく不穏な空気がまとわりついていた。冷静に受け止めた人は少なくあるまい。

転落の引き金になったのは何か。いつ、どんなルートで手を染めるようになったのか。動機、目的は。徹底捜査で解明してもらいたい。

目をつむると、球場を沸かせていたころの歓声が聞こえる。

全国高校野球大会でヒーローとなった大阪・PL学園高時代。後に巨人などで活躍する桑田真澄投手との「KKコンビ」は史上最強と呼ばれた。春夏5季連続出場の甲子園で優勝2回、準優勝2回。

プロ入り後はホームラン打者の天分に磨きがかかる。西武ライオンズでいきなり31本を放ち新人王に。引退するまで525本を積んだ。2122安打、1530打点という数字も含めて一流打者の証しである。

自らまいた種とはいえ、過去の成績やキャリアが帳消しになった。「もったいない」と読者は語るが、それを乗り越えてプロ野球に対するこれ以上の背信行為はない。

清原容疑者が活躍した1980年代半ば～2000年代、背中を追った世代が30～40代となり、実社会で中心的役割を担う。その人たちのあこがれを裏切った責任も重大だ。

清原容疑者逮捕を受け、日本野球機構（NPB）が選手向けの有害行為講習会で薬物の講義を加えることにした。昨年は巨人の3投手による野球賭博が発覚した。賭博も違法薬物も健全なスポーツとなじまない。あらためて自覚する必要がある。

桑田さんは「人生でもきれいな放物線を描く逆転満塁本塁打を打ってほしい」と、窮地の友を励ます。まずは事実の究明が先だ。清原容疑者は頭を冷やしてほしい。どう更生するか。人間「キヨハラ」の真価が問われるのは、その時だ。

## 社説：読書感想文 思考の扉を開け放とう

毎日新聞 2016年2月5日

ただひたすら学校を目指し、ただぼうっと家を目指す。そんな登下校が、この本に出会ってから「有意義な時間」と変わった。

千葉県立さつきが丘中学校1年、木村真恵さんは「身近な雑草の愉快的な生きかた」（筑摩書房）を読んで、それぞれ特性を持ち、たくましく生きる多様な雑草にひかれた。

その感動と発見を、伸び伸びとした筆致で記した「足元にあった愉快的な世界」は、第61回青少年読書感想文全国コンクール（公益社団法人全国学校図書館協議会、毎日新聞社主催）中学校の部で内閣総理大臣賞に選ばれた。1冊の本との出会いが未知の世界へ扉を開き、視野を豊かにする。読書の醍醐味（だいごみ）といえよう。

今回のコンクールには、海外日本人学校も含め450万946編の応募があり、うち小学校の255万1956編は、少子化時代にあっても史上最多を数えた。

教育の一線で本に親しむ指導と読書環境の整備・改善に力を注ぐ教師ら関係者の熱意と実践が大きな支えだ。文部科学省の2014年度公立校調査では、「朝の読書」など全校一斉読書活動をしているのは小学校で96・8%、中学校88・5%、高校42・9%。いずれも増えている。

さらに、地域ボランティアらによる「読み聞かせ」▽本の面白さを聞き手に語り伝える「ブックトーク」▽必読書・推薦書コーナーの設置▽目標とする読書量の設定など、工夫は多様にある。

地域との連携が大切なカギだ。

例えば島根県隠岐諸島の海士町（あまちょう）。人口減少が続き、2400人に満たない。公共図書館はなかった。そうした中、将来の人づくり施策として読書を挙げ、07年に「島まるごと図書館構想」をスタートさせた。

図書館がないなら町内でネットワークをとという発想だ。保育園、小・中・高校のほか、地区公民館など人が集まる所を「図書分館」と位置づけ、図書情報を共有した。スタッフも配置された。

現在は中央図書館が整備され、町内14カ所がネットワークを形成する。町外からも賛同の協力があり、蔵書は飛躍的に増えた。学校でも図書館利用の学習が活発という。

今、学校教育では言語活動、思考力、課題解決型学力重視が大きな流れになっている。校内外の図書や情報の活用はますます重要になる。また大学入試も記述式問題で思考過程を問うという。読書習慣が学力にも反映することは学力テスト結果などで指摘されている。

なお行き届いていない司書教諭、学校司書の配備など基盤の拡充を急ぎ、思考力、表現力、感受性を豊かに育てる学びの支えとしたい。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行